

IG科研&グローバル関係学科研主催
— Online Book Talk 2 —

巣ごもり 読書会 Feminism

『現実を解きほぐすための哲学』

今回は「フェミニズム」について考えるシリーズ第2弾です。

『現実を解きほぐすための哲学』（トランスピュー、2020年）の「性差」と「人種」の章を題材に、二人の語り手が、思うところを自由に話し合います。ふるってご参加ください。

語り手 後藤 絵美 (東京大学)

後藤 絵美 (ごとう えみ)

大学でイスラームとジェンダーに関する講義を受け持つ中で、イスラーム圏の人々の経験や思想を含めた「フェミニズム」って何だろうと考えるようになる。著書『神のためにまとうヴェール——現代エジプトの女性とイスラーム』(中央公論新社、2014)。東京大学日本・アジアに関する教育研究ネットワーク特任准教授。

小手川 正二郎 (國學院大学)

小手川 正二郎 (こてがわ しょうじろう)

「哲学にジェンダーの問題は関係ない」と思い込んだまま教員になった後で、学生やフェミニストたちとの出逢いによって（ようやく）自分の性や人種に向き合わされるようになりました。著作『現実を解きほぐすための哲学』、『甦るレヴィナス』、『フェミニスト現象学入門』(共著)。國學院大学文学部哲学科准教授。

2020. 9.18 Fri 17:00-18:00

会場

Zoomを利用したオンライン開催



◆主催

科研費基盤研究(A) イスラーム・ジェンダー学と現代的課題に関する応用的・実践的研究 (代表: 長沢栄治)
新学術領域研究 グローバル秩序の溶解と新しい危機を超えて: 関係性中心の融合型人文社会科学の確立

◆共催

B01班規範とアイデンティティ (代表: 酒井啓子)

◆問い合わせ先

東京大学 日本・アジアに関する教育研究ネットワーク

イスラーム・ジェンダー学科研事務局